

# 神奈川新聞

THE KANAGAWA

2014年〔平成26年〕

6月6日〔金〕

先勝 | 芒種

©神奈川新聞社 25818号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

## 野菜流通 CO<sub>2</sub>ゼロへ

### 横浜 低環境負荷 EVで実験



## 植物工場とレストラン結ぶ

「二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出量ゼロで野菜を流通」。そんな試みが、横浜市内で行われている。低炭素社会を目指し、日産自動車と同市が協働で進める超小型電気自動車（EV）の大規模カーシェアリング「チョイモビ ヨコハマ」を活用。市内の植物工場で栽培した野菜を、近隣のレストランへ流通している。地方の産地から、トラックなどでCO<sub>2</sub>を排出しながら都市部へと輸送する従来の供給システムに対し、生産から物流まで、低環境負荷の仕組みを構築した「食のスマートシティー化」への挑戦だ。

（岡本 晶子）

9月まで実証実験を行っているのは、発光ダイオード（LED）を使った植物工場の開発などを手掛けるキーストーンテクノロジィ。横浜市中区にある本社工場でもレタス、ルッコラ、ハーブなどを栽培、販売している。

同社によると、LED植物栽培の強みは気候に左右されず、安定した供給が見込めること。水や電力、ス

チョイモビを使い、キーストーンテクノロジィの担当者（右）からレストラン「霧笛楼」へ野菜が届けられた。横浜市中区

ペースが少なく済む上、消費地に生産拠点を置くことで、輸送に伴う環境への負荷が軽減されるとしている。

2人乗りEVによる「チョイモビ ヨコハマ」は、国土交通省の支援を受け、昨年10月から今年9月末まで実施している国内初の事業。1分20円で、横浜駅やみなとみらい21（MM21）地区、元町・山手エリアを中心に、手軽な移動手段として利用されている。

物流に活用するのは今回が初めてのケース。同社は「環境問題が深刻化する中で、できることから積極的に取り組みたい。スマートシティーを掲げる横浜でのスキーム（枠組み）に加わることに、意義があると考えたと強調する。実証実験は現在週1回だが、今後は週3回に増やすという。

これまでの実験の中から、さまざまなことが見えてきた。チョイモビは観光目的に利用されるケースが

多いため、休日と比べ平日の稼働率が低い。しかし、稼働率は平日のため、稼働率向上につながるという。一方で、人を乗せることを前提とした設計のため、段ボール箱3個ほどしか積みなかつたり、窓がないために時に雨にぬれてしまつたり。

実証実験は9月末で終了するが、同社は他企業にも参加を呼び掛けることも、商用ペースでの活用に向け、日産に対し課題や要望などを伝えていく方針。担当者は「今後も、持続可能な都市型農業の確立に向けた挑戦を続けていきたい」と話している。